

## 第2学年社会科学習指導案

日 時 平成26年11月7日(金) 6校時

対 象 2年5組 男17名, 女17名 計34名

指導者 上田 虹輝

1 単元名 日本の諸地域 3節 近畿地方 - 歴史の中で形づくられてきた人々の暮らし -

### 2 単元の目標

地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として、それを国内外の他地域との結び付きや自然環境などに関連付け、地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景がかかわっていることなどについて考える。

- (1) 地域を特色付ける産業や文化が形成された歴史的背景や開発の歴史に関する事柄に着目し、それを中核として地域的特色をとらえさせる。
- (2) 地域の地理的位置の変容を他地域との結び付きの変化との関連でとらえたり、地域の産業や開発の動向を自然環境への働きかけという観点から関連付けたりして追及させる。
- (3) 地域の地理的事象の形成や特色を理解させるために、地理的位置の変化や地理的事象が成立した歴史的背景をとらえるなど地理的条件と歴史的条件とのかかわりなどを踏まえて考察させる。

### 3 単元の評価規準

観点	B: おおむね満足できる
関心・意欲・態度	近畿地方の自然環境、人口、産業などの特色について概観する中で、特に伝統的な文化と歴史的背景に関心を持ち、地域的特色を意欲的に追及しようとしている。 様々な都市の形成、歴史的な景観や伝統的な文化の継承・保存について関心を持つようとしている。
思考・判断・表現	近畿地方の地域的特色を、歴史的背景を中核とした考察を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 近畿地方の様々な都市の特色について、その歴史的背景の違いに着目して考察し、表現している。
技能	資料から、近畿地方の地域的特色について、有効な情報を適切に選択して、それを基に読み取ったり図表などにまとめたりしている。
知識・理解	近畿地方について、自然環境や人口、産業などの特色を大まかにとらえることができる。 近畿地方について、歴史的背景を中核とした考察を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

### 4 単元について

#### (1) 生徒について

本学級は、社会科の授業を意欲的に受ける生徒が多く、挙手・発言が活発である。一方で、資料を読み取る力や自分の意見や考えをもつこと、周りと話し合うことに弱さがあると感じる。その部分を改善していくために、資料の読み取る視点を与え繰り返し取り組んでいきたい。また、話し合い活動を取り入れ、生徒が自分の考えをまとめ、発表する力をつけさせていきたい。

## (2) 教材について

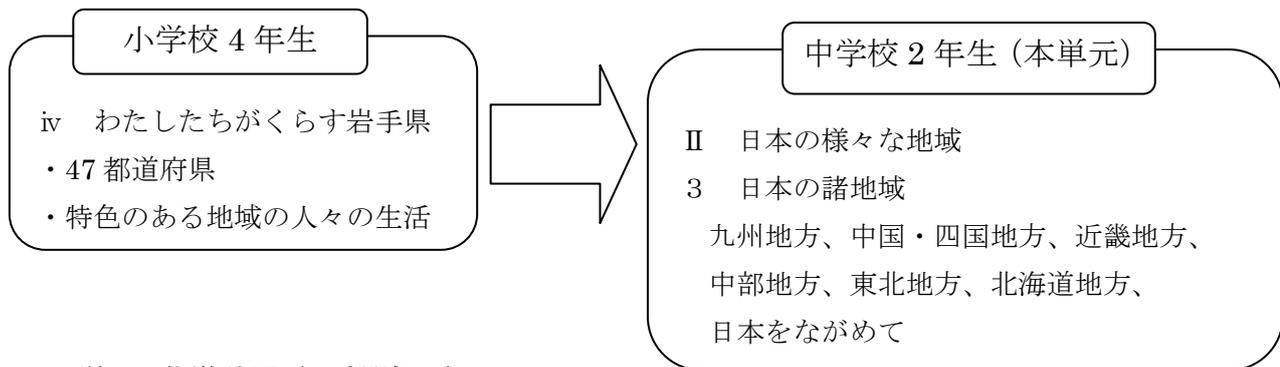
本単元は、中学校学習指導要領解説社会編の地理分野(2)日本の様々な地域の「ウ 日本の諸地域」について学習する。ここでは、「日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域の特色ある地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追及する活動を通して、日本の諸地域の地域的特色をとらえさせること」を主なねらいとしている。

本単元では、近畿地方の自然環境や人口、産業について学習したのち、近畿地方の追求テーマである、歴史の中で形作られた都市や郊外について学習していく。

## (3) 指導について

資料の読み取りや自分の意見、考えを発表する力が弱いため、授業内でこの力を伸ばしていくための時間をしっかりと確保する。資料の読み取りが難しい生徒には読み取るための視点を与え、全員が資料から課題を読み取ることが出来るようにする。また、話し合い活動は人数が多くなると発言できない生徒もいるため、少人数での話し合い活動を行う。

## 5 単元の系統と他教科との関連



## 6 単元の指導計画 (5時間扱い)

- (1) 近畿地方の生活舞台
- (2) 近畿地方の人々の営み
- (3) 古都の成り立ちと現在 (本時)
- (4) 都市と郊外の成り立ち
- (5) 現代に開発されたニュータウン

## 7 本時について

### (1) 目標

- ①京都・奈良には伝統的な文化や歴史的な町並みが残り、世界から多くの観光客が来ていること理解する。《知識・理解》
- ②京都独自の取り組みが、外国人観光客を増加させていることをとらえる。《思考・判断・表現》

### (2) 「自分の考えをもつ<sup>自</sup>」「互いの考えを交流する<sup>交</sup>」「お互いの考えのよさに気づく<sup>気</sup>」場面

本時の「自分の考えをもつ」場面は、課題提示の後の個人でノートに記入する場面である。

本時の「互いの考えを交流する」場面は、本時のまとめをグループで考える場面である。

本時の「互いの考えのよさに気づく」場面は、まとめを発表し合う場面である。

(3) 展開

段階	学習活動	場面	○指導上の留意点●評価の観点(方法)
導入 7分	1 日本国内で行きたい都道府県はどこか、理由も合わせて答える。 2 日本を訪れる外国人がどの都道府県に多いのか、資料から読み取る。 3 学習課題を知る。		○自分が行きたい都道府県を理由も含めて考えさせる。 ○資料「訪日外客の地方別訪問率」の都道府県別訪問率推移から京都を訪れる外国人観光客が多いことを読み取らせる。
多くの外国人観光客が京都を訪れる理由はなんだろう？			
展開 35分	4 課題について予想を立てる。 ・寺があるから。 ・世界遺産があるから。など 5 京都が古都であることを理解する。 6 京都にある史跡・国宝の数を調べ、多くの文化財があることを知る。 7 京都が取り組んでいる新景観条例と外国人観光客への配慮を理解する。	自	○どのような理由で京都を訪れる外国人観光客が多いと考えたのか、予想を立てさせる。予想は、学習プリントに記入させ、発表させる。 ○京都の歴史を押さえる。歴史分野でも押さえている内容であるため、京都に平安京や朝廷が置かれたことを簡単に触れる。 ○資料集 P160 から、京都にある史跡、国宝の数を調べさせる。また、知っている世界遺産等の文化財があれば記入させる。 ○京都の有名な文化財を写真で示す。 ○京都が取り組んでいる新景観条例の説明をする。また、資料集 P161 の景観に配慮したコンビニの写真を見せ、なぜ、そのような取り組みをしているのか考えさせる。 ○京都市のホームページの英語版や中国語版を見せる。また、京都市内のバスの車内放送の様子から外国人観光客への配慮があることを理解させる。  ●予想を立て、自分の考えをもっているか確認する。
終末 8分	8 個人でまとめた後、グループで発表し合う。その後、グループでまとめを1つにし、全体で発表する。	交  気	○京都に魅力を感じる人が多い理由を授業のキーワードを使ってまとめさせる。 ○数人に発表させ、学習課題に対するとらえを全体で確認する。  ●学習した内容を自分の言葉でまとめられている。 ●本時のまとめを交流しながらまとめられている。
京都には世界遺産をはじめとする多くの文化財があり、観光客を惹きつける魅力がある。京都府自身も景観を守る条約を制定し、また、表示や案内を外国語にすることで外国人観光客が京都を訪れやすくしている。			

(4) 板書計画

11月7日 P184~185

課題 **多くの外国人観光客が京都を訪れる理由は何だろう？**

**金閣寺** **銀閣寺** **東大寺大仏** **平城宮跡**(写真)

**課題に対する予想**

…多くの世界遺産がある。

例 お寺がたくさんあるから。

コンビニの色が京都だけ違うのはなぜか？

京都には歴史があるから。

**予想**

**平安京**(写真) **朝廷**

新景観条例…

…1000年以上前に都が置かれていた。

**まとめ**

京都は古都である。

京都には世界遺産をはじめとする多くの文化財があり、観光客を惹きつける魅力がある。京都府自身も景観を守る条例を制定し、また、表示や案内を外国語にすることで外国人観光客が京都を訪れやすくしている。